

I. 平成25年度の概要

1. 事業について

公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団は、「生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究を奨励することにより、この分野の学術の振興を図り、もって、人類の健康と福祉の増進に寄与する」ことを目的として、平成22年10月1日に公益財団法人へ移行し、定款に定める事業を開始した。この事業報告及び決算報告書は、平成25年4月1日から平成26年3月31日までの期間についての当財団の事業活動を取りまとめたものである。

平成25年11月1日は当財団創立30周年に当たり、記念事業として、海外帰国研究者研究継続支援助成並びに若手研究者海外短期留学奨学研究助成（単年度実施）、当財団30年間の記録を記載した「30年のあゆみ」の発行及び記念式典の開催を実施した。

平成25年度は、第一三共株式会社及び匿名者1名からの寄附金収入、基本財産の運用収入並びに前年度からの繰越金を活用し、以下のとおり、公益目的事業を助成事業（公1）並びに研究業績褒賞事業（公2）に区分して実施した。内、海外共同研究支援助成及び研究会・シンポジウム開催助成は、募集を休止した。

助成事業 （公1）	1. 研究助成 2. 海外共同研究支援助成（平成25年度休止） 3. 研究会・シンポジウム開催助成（平成25年度休止） 4. 海外留学奨学研究助成 5. 財団創立30周年記念助成事業 （1）海外帰国研究者研究継続支援助成 （2）若手研究者海外短期留学奨学研究助成
研究業績褒賞事業 （公2）	1. 研究業績褒賞事業（第11回高峰記念第一三共賞） 2. 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催 （第30回高峰カンファレンス）

2. その他について

(1) 指定寄附金収入

- 1) 第一三共株式会社より、平成25年4月19日、指定寄附金として、1億6千5百万円を受領した。
- 2) 匿名者1名より、平成25年12月5日、助成事業に対し、指定寄附金として、1万5千円受領した。

(2) 主要事業活動報告

- 1) 平成25年4月22日の第7回選考委員会において、若手研究者海外短期留学奨学研究助成並びに第11回高峰記念第一三共賞第一次候補者の選考を実施した。
- 2) 平成25年5月13日に若手研究者海外短期留学奨学研究助成候補者面接審査会に

において、最終候補者の選考を実施した。

- 3) 平成25年5月22日の第11回高峰記念第一三共賞審査委員会において、同賞の最終候補者の審査を実施した。
 - 4) 平成25年5月31日の第12回理事会において、平成24年度（平成24年4月1日～平成25年3月31日）の事業報告及び決算報告書、若手研究者海外短期留学奨学研究助成者の決定、第11回高峰記念第一三共賞受賞者の決定、理事候補者推薦の件、「評議員会の日時及び場所並びに目的である事項」の件について、審議され、承認を得た。
 - 5) 平成25年6月24日の第6回評議員会において、平成24年度（平成24年4月1日～平成25年3月31日）決算報告書の件、理事退任並びに選任の件について、審議され、承認を得た。
 - 6) 平成25年6月25日、内閣府に平成24年度事業報告等の提出を行った（電子申請）。
 - 7) 平成25年7月11日の第13回理事会を书面決議にて実施し、常務理事（業務執行理事）の選定の件について、審議され、承認を得た。
 - 8) 平成25年7月17日、内閣府に理事の退任及び就任に係わる変更届の提出を行った（電子申請）。
 - 9) 平成25年10月30日の第8回選考委員会において、平成25年度研究助成、平成26年度海外留学奨学研究助成及び海外帰国研究者研究継続支援助成の選考を実施した。内、平成26年度海外留学奨学研究助成については、11月27日に内定者（5名）の面接を実施した。
 - 10) 平成25年12月11日の第14回理事会において、平成25年度研究助成対象者決定の件、平成26年度海外留学奨学研究助成対象者決定の件、海外帰国研究者研究継続支援助成対象者決定の件、高峰記念第一三共賞審査委員改選について、平成26年度事業推薦・応募要領について、助成（褒賞）候補者推薦依頼先について、助成（褒賞）候補者推薦依頼先の公開について、審議され、承認を得た。
 - 11) 平成26年2月5日の第15回理事会において、平成26年度事業計画及び収支予算について、審議され、承認を得た。
 - 12) 平成26年2月5日、財団創立30周年記念式典及び第11回高峰記念第一三共賞贈呈式を開催した。
 - 13) 平成26年2月17日、内閣府に平成26年度事業計画並びに収支予算書を提出した（電子申請）。
 - 14) 平成26年3月7日に第30回高峰カンファレンスを開催した。
- (3) 人事関係
- 1) 平成25年6月24日の第6回評議員会において、理事退任並びに選任の件について、審議され、承認を得た。森田理事の退任と理事として、金子次男氏、中山譲

治氏が選任された。

- 2) 平成25年7月11日に第13回理事会を書面決議にて実施し、常務理事（業務執行理事）の選任の件について、承認を得た。金子次男理事が常務理事に就任した。
- 3) 平成25年7月17日、内閣府に当財団理事 森田明氏の退任及び金子次男氏、中山讓治氏の両氏の理事への就任に係わる変更届を提出した（電子申請）。
- 4) 平成25年12月11日の第14回理事会にて、任期満了に伴う高峰記念第一三共賞審査委員改選の審議が行われ、審査委員全員が再任された。
- 5) 職員については、平成25年4月1日付、岩崎幸江氏が出向元（第一三共株式会社）に異動し、平成25年4月1日付、金子次男氏、今田純子氏が第一三共株式会社より当財団へ出向になった。また、森田明氏は、平成25年7月31日付、当財団職員を退職した。

Ⅱ. 平成25年度事業報告

1. 事業の総括

	事業	金額	備考
助成事業 (公1)	研究助成 (定款第4条-1)	60,000千円	平成24年度 @100万円×30件 平成25年度 @100万円×30件
	海外共同研究支援助成 (定款第4条-2)	0千円	(平成25年度休止)
	研究会・シンポジウム開催助成 (定款第4条-3)	0千円	(平成25年度休止)
	海外留学奨学研究助成 (定款第4条-4)	21,000千円	平成24年度 @300万円×3件 平成25年度 @300万円×4件
	(財団創立30周年記念助成事業) 海外帰国研究者研究継続支援助成	18,000千円	@300万円×6件
	(財団創立30周年記念助成事業) 若手研究者海外短期留学奨学研究助成	4,200千円	@45万円×1件 @75万円×5件
	その他助成事業費	22,388千円	
	助成事業計	125,588千円	
研究業績褒賞事業 (公2)	研究業績褒賞費 (定款第4条-5)	11,007千円	第11回高峰記念第一三共賞
	シンポジウム開催 (定款第4条-5)	6,786千円	第30回高峰カンファレンス
	その他研究業績褒賞事業費	7,994千円	
	研究業績褒賞事業計	25,787千円	
合計		151,375千円	

2. 助成事業 (公1)

(1) 平成25年度研究助成 (定款第4条-1)

- 1) 概要：当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究に従事する研究者に対して、研究助成を行うことにより、学術及び科学技術の振興を図ることを目的としている。
- 2) 募集対象：日本国内在住の生命科学分野を専攻し、優秀、かつ最先端の研究をする50歳未満の研究者。
- 3) 募集規模
 - ①1件当たり200万円 (助成期間は、2年間)。
 - ②採択数：30件。
- 4) 募集方法
 - ①理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長・研究所長、

研究機関長並びに当財団の理事・評議員・顧問、過去の褒賞受賞者に対して推薦を依頼した。

②当財団ホームページにて、応募要領を掲載し、募集した。

5) 応募方法

①理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長・研究所長、研究機関長並びに当財団の理事・評議員・顧問、過去の褒賞受賞者を推薦者とし、応募要領、応募者選定ガイドライン、所定の推薦書を送付した。

②応募者は、上述の推薦者に推薦を依頼した。

③推薦者は応募者の中から、応募者選定ガイドラインに基づき、応募者を公正かつ適正に選定した。

④応募者は、推薦書を取得後、所定の申請書、主要論文を当財団に送付した。

⑤応募受付期間：平成25年4月1日～5月31日

⑥平成25年度の応募数：191件。

6) 選考方法：理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる第8回選考委員会による選考結果をもとに、第14回理事会にて30件の助成対象者を決定した。(附属明細書資料 - 1：平成25年度当該助成採択者参照)

7) 研究成果の公表

①助成者は、助成期間終了後、研究論文を当財団に提出する。

②助成者の研究論文を基に、研究報告集を作成し、全国生命科学分野の大学及び研究機関の図書館、当財団関係者、並びに助成者等に寄贈する。尚、本年度は、平成23年度研究助成並びに海外留学奨学研究助成等の成果論文について、当該報告集Vol.29として、平成25年11月22日に発刊し、295箇所へ寄贈した。

③助成期間終了後、収支報告書を当財団に提出する。

④助成者の氏名、研究テーマを当財団ホームページにて掲載した。

(2) 平成25年度海外共同研究支援助成（定款第4条-2）

1) 概要：海外の研究機関と共同研究を実施している研究者に助成を行う。

2) 募集対象：海外の学者との共同研究を行っている、日本国内在住の生命科学分野を専攻する研究者で、海外の研究者との共同研究を目的とした、海外渡航或いは海外の研究者を招聘する者。

3) 募集規模

①1件当たり50万円以内。

②採択数：研究会・シンポジウム開催助成と併せて10件以内。

4) 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一。

5) 応募方法

- ①応募方法は、「研究助成」と同一。
- ②応募受付期間：平成25年度は募集を休止した。

(3) 平成25年度研究会・シンポジウム開催助成（定款第4条－3）

- 1) 概要：萌芽的な研究をテーマとした、国際シンポジウムを対象とする助成である。
- 2) 募集対象：生命科学分野に関する国際シンポジウムの中で、過去に海外で開催され、助成対象期間に日本にて開催される国際シンポジウムの開催助成
- 3) 募集規模
 - ①1件当たり50万円以内。
 - ②採択数：海外共同研究支援助成と併せて10件以内。
- 4) 募集方法：当財団ホームページにて、応募要領を掲載し、募集する。
- 5) 応募方法
 - ①応募者は、所定の申請書必要事項を記入後、当財団に送付する。
 - ②応募受付期間：平成25年度は募集を休止した。

(4) 平成26年度海外留学奨学研究助成（定款第4条－4）

- 1) 概要：海外の研究機関にて一定の期間研究に専念する優秀な若手研究者に奨学研究助成金を交付する。
- 2) 募集対象
 - ①原則、日本国籍を有し、生命科学分野を専攻する研究者で、年齢が35歳以下である者。尚、医師免許取得者は37歳以下とする。
 - ②海外の大学等研究機関において、1年間以上研究に従事することを計画している者。
- 3) 募集規模
 - ①1件当たり600万円（助成期間は、2年間）。
 - ②採択数：5件以内。
- 4) 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一。
- 5) 応募方法
 - ①応募方法は、「研究助成」と同一。
 - ②応募受付期間：平成25年4月1日～5月31日
 - ③平成26年度の応募数：40件。
- 6) 選考方法
 - ①理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる第8回選考委員会による選考結果をもとに、内定候補者を決定。

②11月27日に、辻省次選考委員長、福山透選考委員並びに理事長を面接官として、内定候補者の面接を実施し、最終内定者（5名）を決定した。

③第14回理事会にて5名の助成対象者を決定した。その後、1名の辞退があったため、第14回理事会にて決定した手続きを踏まえ、1名繰上げて採択した。（附属明細書資料-2：平成26年度当該助成採択者参照）

7) 研究成果の公表：「研究助成」と同一。

(5) 財団創立30周年記念助成事業

1) 海外帰国研究者研究継続支援助成

①概要：当事業は、平成25年度が財団創立30周年にあたり、それを記念して実施する助成事業であり、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究に意欲的に取り組んでいる海外帰国研究者で、かつ、帰国後の研究資源に恵まれない者に対して研究継続支援助成を行う。尚、平成25年度単年度の事業である。

②募集対象：平成24年1月以降に海外留学から帰国した研究者、或いは現在海外留学中で、平成25年12月までに帰国する45歳未満の研究者（海外留学期間2年以上とする）。

③募集規模

ア) 1件当たり300万円（助成期間は、3年間）。

イ) 採択数：5件以内。

④募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一。

⑤応募方法

ア) 応募方法は、「研究助成」と同一。

イ) 応募受付期間：平成25年1月15日～2月28日

ウ) 応募数：49件。

⑥選考方法

ア) 選考方法：理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる第8回選考委員会による選考を実施した。

イ) 応募49件のうち集計順位5位と6位が同点であり、予備費からの費用捻出が可能であるとの事務局報告を受けて、採択枠5名のところ6名を候補者とする事とした。

ウ) 当該結果をもとに、第14回理事会にて6件の助成対象者を決定した。（附属明細書資料-3：海外帰国研究者研究継続支援助成採択者参照）

⑦研究成果の公表：「研究助成」と同一。

2) 若手研究者海外短期留学奨学研究助成

- ①概要：当事業は、平成25年度が財団創立30周年にあたり、それを記念して実施する助成事業であり、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究を専攻する若手研究者の流動性向上、キャリア形成を図ることを目的としている。尚、平成25年度単年度の事業である。
- ②募集対象
- ア) 生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究分野の研究者を目指す、日本国内在住の大学院生。
- イ) 3ヶ月以内の海外留学を計画している者。
- ③募集規模
- ア) 1件当たり75万円以内。
- イ) 採択数：6件以内。
- ④募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一。
- ⑤応募方法
- ア) 応募方法は、「研究助成」と同一。
- イ) 応募受付期間：平成25年1月15日～2月28日
- ウ) 応募数：9件。
- ⑥選考方法
- ア) 理事会にて選任された、生命科学分野における有識者からなる第7回選考委員会による選考結果をもとに、内定候補者（6名）を決定。
- イ) 平成25年5月13日に、内定候補者に対して、財団創立30周年記念事業選考委員会による若手研究者海外短期留学奨学研究助成候補者面接審査会を実施し、最終内定者（6名）を第12回理事会にて採択者として決定した。（附属明細書資料-4：若手研究者海外短期留学奨学研究助成採択者参照）
- ⑦研究成果の公表：実施報告書並びに収支報告書の提出の他、平成26年度に成果報告会を実施予定。

3. 研究業績褒賞事業（公2）

(1) 研究業績褒賞事業（定款第4条-5）

- 1) 概要：当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究の進歩発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される研究者に対する褒賞を実施する。
- 2) 褒賞名：第11回高峰記念第一三共賞
- 3) 褒賞対象者：生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究において、その進歩・発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される日本国内在住の研

究者。

4) 推薦方法

- ①理事会により選定された全国の生命科学分野の大学院研究科長・研究所長、研究機関長、又は、当財団の理事・評議員・顧問・選考委員、過去の褒賞受賞者に推薦を依頼した（但し、高峰記念第一三共賞審査委員は推薦者より除く）。
- ②推薦期間：平成25年1月15日～2月28日
- ③推薦件数：本年度は、11件の推薦があった。

5) 選考方法

- ①第一次選考：第7回選考委員会により応募候補者の選定を行い、4名の候補者が第二次候補者となった。
- ②第二次応募候補者に対し応募の意思の確認および応募申請の要請を行った。

6) 最終選考

- ①第11回高峰記念第一三共賞審査委員会は、応募申請書及び選考委員会結果を参考に、審査基準に基づき審議し、最終候補者を選定した。
- ②第12回理事会において、褒賞受賞者を決定した。
- ③受賞者名、受賞研究テーマ、受賞理由を当財団ホームページにて掲載するとともに、プレスリリースを実施した。

7) 受賞者及び受賞研究テーマ

- ①受賞者：山本 雅之博士（東北大学大学院医学系研究科教授）
受賞研究テーマ：「環境ストレスに対する生体応答メカニズムの解明」

8) 褒賞の方法および贈呈

- ①賞状、賞牌並びに副賞（1,000万円）を贈呈した。
- ②贈呈式を実施し、表彰した（日時：平成26年2月5日、場所：東京會館）。出席者数：74名（財団創立30周年記念式典同時開催）。
- ③贈呈式において、受賞者に講演を依頼。当日、受賞者の略歴・業績集を贈呈式参加者に配布した。

(2) 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（定款第4条-5）

- 1) 概要：高峰記念第一三共賞受賞者の業績を記念したシンポジウムを開催し、学術交流の場を提供することにより、研究の振興並びに若手研究者の養成を図る。
- 2) 名称：第30回高峰カンファレンス
- 3) 開催の内容
 - ①テーマ：「環境応答の分子基盤」
 - ②開催時期：平成26年3月7日

③開催場所：東京會館

④プログラム：受賞者による記念講演及び関連講演。

ア) 記念講演

座長：高久史磨先生（日本医学会長）

演者：山本 雅之先生（東北大学大学院医学系研究科教授）

演題：環境ストレスに対する生体応答メカニズムの解明

イ) 講演

座長：山本 雅之先生（東北大学大学院医学系研究科教授）

演者1：小松 雅明先生（公益財団法人東京都医学総合研究所 蛋白質リ
サイクルプロジェクト プロジェクトリーダー）

演題：オートファジーとKeap1-Nrf2システムの連動機構

演者2：赤池 孝章先生（東北大学大学院医学系研究科教授）

演題：環境応答とチオールバイオロジー

演者3：柴田 龍弘先生（独立行政法人国立がん研究センター研究所
がんゲノミクス研究分野 分野長）

演題：Keap1-Nrf2システムと発癌

⑤応募方法及び出席者数：募集期間（平成26年1月15日～平成26年1月24日）を設定し、高峰カンファレンステーマに関連する研究を行う大学大学院、研究機関等にポスター配布、当財団ホームページより参加者を募った。その結果、121名の参加者を得た。

⑥開催終了後の成果物：プログラムを当財団ホームページへ掲載した。

4. その他

(1) 財団創立30周年を記念して、「30年のあゆみ」発行。

1) 平成25年11月22日に刊行

2) 内閣府、文部科学省、全国の生命科学分野の大学大学院研究科長・研究所長、研究機関長及び大学、研究機関の図書館、生命科学関連財団並びに当財団評議員、理事、監事、選考委員、顧問、褒賞受賞者、旧当財団関係者等、506箇所に贈呈した。

(2) 財団創立30周年記念式典開催

1) 平成26年2月5日に、東京會館にて、第11回高峰記念第一三共賞贈呈式と合同にて、財団創立30周年記念式典を実施した。

2) 顧問の杉村隆先生（日本学士院長）、尾前照雄先生（久山町ヘルスC&Cセンター

長)、吉永馨先生(宮城県成人病予防協会会長)並びに出損会社を代表し、中山讓治氏(第一三共株式会社代表取締役社長兼CEO)より祝辞を頂いた。

3) 同時に、海外帰国研究者研究継続支援助成採択者(6名)の贈呈式を執り行った。

4) 参加者は、公益法人協会、助成財団センター、生命科学関係財団、第一三共株式会社関係者、海外帰国研究者研究継続支援助成採択者並びに当財団評議員、理事、監事、選考委員、顧問、褒賞受賞者、旧当財団関係者等、74名の出席を得た。

(3) ホームページのリニューアル及び助成Web登録システムの導入

1) 当財団のホームページについて、助成申請者等ユーザーの視点に立ち、再設計し、平成25年7月26日、リニューアルを実施した。

2) 助成業務の効率化を図るべく、Web上にて申請、選考及び当該管理を行うシステムを導入中であり、第一段階として、平成26年度海外共同研究支援助成、平成26年度研究会・シンポジウム開催助成に関し、導入を開始した。

以 上

5. 附属明細書

[資料-1]

平成24年度研究助成採択者

30件（交付金：1件100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名	研究課題
浅川和秀	国立遺伝学研究所個体遺伝研究系・助教	筋萎縮性側索硬化症（ALS）に準えた疾患モデルゼブラフィッシュの樹立と解析
伊東進	昭和薬科大学薬学部・教授	がん化過程におけるTGF-βシグナルの陰陽分子メカニズム
今居譲	順天堂大学医学研究科神経変性疾患病態治療探索講座・先任准教授	若年性パーキンソン病原因遺伝子産物によるミトコンドリアの恒常性維持機構の解明
浦野泰照	東京大学大学院医学系研究科・教授	新規activatable光増感プローブの精密開発によるがんの高選択的PDT治療の実現
大内乗有	名古屋大学大学院医学系研究科分子循環器学寄附講座・教授	新規アディポサイトカインによる血管病制御機構の解明
太田嗣人	金沢大学脳・肝インターフェースメディスン研究センター・准教授	新規ケモカインによるインスリン抵抗性の病態分子構解明と治療応用
大塚稔久	山梨大学大学院医学工学総合研究部生化学講座第一教室・教授	神経終末アクティブゾーン蛋白質CASTの機能修飾とその破綻
岡田欣晃	大阪大学大学院薬学研究科生命情報解析学分野・准教授	Robo4遺伝子ノックアウトマウスが敗血症抵抗性を示すメカニズムの解明
川崎常臣	福井大学大学院工学研究科材料開発工学専攻・准教授	アキラルイミンの単結晶中における二次元配向を利用した不斉アミノ酸合成法の開発
河原行郎	大阪大学医学系研究科・特任准教授	ALS病態の解明に向けたTDP-43分解制御機構の同定
近藤久雄	九州大学大学院医学研究院細胞工学分野・教授	細胞内小器官の異常を来す分子機構とその病態生理意義
鈴木一博	大阪大学免疫学フロンティア研究センター・特任准教授	自己免疫疾患の病態における神経系による免疫応答制御機構の解明
高須清誠	京都大学大学院薬学研究科・教授	In situ活性化に基づくpH応答型抗腫瘍活性化化合物および蛍光プローブの創製
竹内理	京都大学ウイルス研究所感染防御研究分野・教授	RNA分解酵素Regnase-1による炎症制御メカニズムの解析
竹内賢吾	がん研究会がん研究所分子標的病理プロジェクト・プロジェクトリーダー	リンパ腫の病理学的研究：治療戦略を左右する新規疾患概念の確立と新規病因遺伝子の探索
中沢由華	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・テニユアトラック助教	紫外線高感受性症候群の責任遺伝子UVSSAの機能解析
中村貴史	鳥取大学大学院医学系研究科機能再生医学専攻生体高次機能学部門・准教授	マイクロRNAを指標にして難治性悪性腫瘍を標的破壊する癌ウイルス療法とバイオイメーキングの新戦略
南学正臣	東京大学大学院医学系研究科腎臓・内分泌内科・教授	methylglyoxalによる心腎連関と血管老化の機序の解明

氏名	所属機関・職名	研究課題
南保明日香	北海道大学大学院薬学研究院・講師	将来的なエボラウイルス制圧を目的とした抗エボラウイルス薬ハイスルーブットスクリーニング系の開発
西川俊夫	名古屋大学大学院生命農学研究科・教授	新規連続環化反応によるサキトキシン関連化合物の合成とイオンチャネル阻害剤の創製
西頭英起	宮崎大学医学部機能生化学・教授	ALSにおける小胞体ストレスを介した運動神経細胞死メカニズムの解明
花房洋	名古屋大学大学院理学研究科・助教	受容体型チロシンキナーゼのリソソーム分解制御と細胞癌化
深見真紀	国立成育医療研究センター分子内分泌研究部・部長	次世代遺伝子解析技術を用いた新規性分化疾患発症機序の解明
福田光則	東北大学大学院生命科学研究科膜輸送機構解析分野・教授	Rab機能不全による神経疾患発症の分子基盤の解明
藤田恭之	北海道大学遺伝子病制御研究所分子腫瘍分野・教授	正常上皮細胞と癌細胞の相互作用を利用した新規癌治療薬の開発
別所義隆	理化学研究所放射光科学総合研究センター機能解析第2研究チーム・チームリーダー	不治ミトコンドリア病の治療に新しい光
村上誠	東京都医学総合研究所脂質代謝プロジェクト・プロジェクトリーダー	新規GPC産生経路の同定とその生物学的意義の解明
山縣和也	熊本大学大学院生命科学研究部病態生化学分野・教授	膵β細胞転写因子を基盤とした糖代謝制御機構の解明
山本雅裕	大阪大学微生物病研究所感染病態分野・独立准教授	病原性原虫エフェクター分子群による宿主免疫回避機構の解明
和氣弘明	自然科学研究機構基礎生物学研究所光脳回路研究部門・助教	グリア細胞の機能からみた精神・神経疾患へのアプローチ

平成25年度研究助成採択者

30件（交付金：1件100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名	研究課題
浅野 謙一	東京薬科大学生命科学部・准教授	骨髄CD169陽性マクロファージによる造血系幹細胞の分化制御
池ノ内 順一	九州大学大学院理学研究院生物科学部門代謝生理学研究室・准教授	生体膜脂質の多様性の意義の解明
江口 潤	岡山大学病院腎臓・糖尿病・内分泌内科・助教	脂肪組織と骨格筋を制御する新規膜蛋白の同定とメタボリック症候群における病態生理学的意義
榎本 和生	東京大学大学院理学系研究科・教授	不要神経回路の選択的除去メカニズムに関する遺伝学的研究
沖米田 司	関西学院大学理工学部生命科学科生命医化学専攻・准教授	閉塞性肺疾患関連膜タンパク質を標的とした HTS アッセイの構築
長船 健二	京都大学iPS細胞研究所増殖分化機構研究部門・准教授	貧血に対する再生医療開発を目指したヒトiPS細胞からの腎エリスロポエチン産生細胞作製
勝野 雅央	名古屋大学大学院医学系研究科(神経内科学)・准教授	運動ニューロン疾患に対する分子標的治療法の開発
嘉糠 洋陸	東京慈恵会医科大学医学部・教授	病原体節足動物の腸管バリアシステムの分子基盤
喜田 聡	東京農業大学バイオサイエンス学科・教授	記憶想起に対する時計遺伝子BMAL1の役割の解析
久保田 義顕	慶應義塾大学医学部機能形態学研究室・准教授	腫瘍血管レドックス・シグナルを標的とした新規がん分子標的療法の開発
見学美 根子	京都大学物質-細胞統合システム拠点・教授	哺乳類脳のニューロン樹状突起形成と維持におけるミトコンドリア機能の解明
河野 肇	帝京大学医学部内科学講座・准教授	HDLの抗動脈硬化作用における自然炎症の関与
眞田 佳門	東京大学大学院理学系研究科遺伝子実験施設・准教授	ダウン症モデルマウスにおける神経発生異常の分子基盤の解析
塩崎 一裕	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科・教授	キナーゼ結合タンパク質Sin1によるシグナル伝達ネットワーク
竹本 龍也	徳島大学藤井節郎記念医科学センター初期発生研究分野・特任助教	胚の細胞系譜の分岐に従った骨格筋・脊椎骨産出の細胞分化デザイン
谷内 一郎	理化学研究所免疫転写制御研究グループ・グループディレクター	長鎖非コード RNAによるRUNX転写因子調節を介した喘息発症抑制機構の解明
中川 一路	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科・教授	Atg5依存・非依存的な細菌感染特異的オートファジー誘導機構の解析
西村 智	東京大学大学院医学系研究科循環器内科・特任准教授	肥満脂肪組織における局所免疫賦活化機構を標的とした代謝疾患治療法の開発
長谷 耕二	東京大学医科学研究所・特任教授	腸管M細胞における宿主-微生物間相互作用の解析
馬場 義裕	大阪大学免疫学フロンティア研究センター医科学研究所・特任准教授	自己免疫性炎症を抑制するB細胞の作用機序の解明

氏名	所属機関・職名	研究課題
濱崎万穂	大阪大学大学院医学系研究科遺伝医学講座遺伝学教室・助教	最新光顕・電顕相関法を用いたオートファゴソーム膜形成過程初期の解明
久本直毅	名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻・准教授	軸索再生誘導因子SVH-1の機能解明
等誠司	滋賀医科大学医学部医学科生理学講座統合臓器生理学部門・教授	カニクイザルを用いた気分安定薬の薬理作用と作用機序の解析
星野克明	香川大学医学部病理病態・生体防御医学講座免疫学・教授	形質細胞様樹状細胞における転写因子Spi-Bを介するインターフェロン産生誘導メカニズムの解明
堀江恭二	奈良県立医科大学生理学第二講座・教授	変異ES細胞ライブラリーの分化誘導による細胞系譜決定因子の探索
三嶋雄一郎	東京大学分子細胞生物学研究所・助教	受精を引き金としてmRNAの安定性が変化するしくみの解明
水島昇	東京大学大学院医学系研究科(分子生物学分野)・教授	オートファジーの選択的基質認識に関する研究
光永真人	東京慈恵会医科大学消化器・肝臓内科・助教	がん幹細胞を標的とした新規分子標的の特異的光線化学療法の開発
本橋ほづみ	東北大学加齢医学研究所遺伝子発現制御分野・教授	IDH1変異体を利用したがん細胞選択的Nrf2機能抑制の試み
綿田裕孝	順天堂大学大学院医学研究科代謝内分泌内科学・教授	糖尿病における膵β細胞障害機構

[資料-2]

平成24年度海外留学奨学研究助成採択者

3件 (交付金：1件 300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
今井 駿 輔	東京大学大学院薬学系研究科・特任研究員 Harvard Medical School 米国	IRES依存的翻訳機構の構造生物学的解明
岩崎 正 治	九州大学医学部 (医学科)・学部生 (医学博士) Scripps Research Institute 米国	出血熱アレンウイルスの複製や遺伝子発現を制御する宿主因子の同定と機能解析
川岸 裕 幸	国立長寿医療研究センター研究所老化細胞研究プロジェクトチーム・流動研究員 National Institutes of Health 米国	オートファジー活性化時におけるDNA損傷応答機構の役割と代謝系疾患との関連

平成25年度海外留学奨学研究助成採択者

4件 (交付金：1件 300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
関根 悠 介	東京大学大学院薬学系研究科・助教 University of Cambridge 英国	小胞体ストレスセンサーIRE1の新たな活性制御作用点の解明
錦井 秀 和	筑波大学医学医療系血液内科・講師 Stanford University 米国	造血幹細胞移植後の骨髄内GVHDが及ぼす骨髄ニッチの影響に関する研究
日吉 大 貴	大阪大学微生物病研究所・特別研究員 Max, Planck Institute for Heart and Lung Research ドイツ	サルモネラ、宿主とその腸内細菌叢
福田 隆 一	国立遺伝学研究所・日本学術振興会特別研究員 (PD) University of California San Francisco 米国	ASB family分子による心臓発生・心機能への影響解析

平成26年度海外留学奨学研究助成採択者

5件 (交付金：1件 300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名・留学先	研究課題
東 正 大	北海道大学大学院医学研究科免疫学分野・特任助教 モントリオール大学 カナダ	反復プロテオミクスによるオートファジーを介した抗原提示基盤の解明
河野 浩 之	水俣市立総合医療センター神経内科・部長 The University of Newcastle オーストラリア	超急性期脳梗塞に対する血管再開通療法の適応拡大のための研究
菅原 亨	国立成育医療研究センター研究所生殖細胞医療研究部・研究員 University of Southern California 米国	ALSの発症のメカニズムの解明、およびマイクロRNAの機能解析
二村 圭 祐	大阪大学大学院医学系研究科遺伝子治療学・助教 国立衛生研究所 米国	クロマチン制御異常による先天性心疾患発症メカニズムの解明
日野原 邦 彦	東京大学医科学研究所分子療法分野・特任助教 Harvard Medical School Dana-Farber Cancer Institute 米国	乳がん幹細胞制御に関わるエピゲノム解析

海外帰国研究者研究継続支援助成採択者

6件（交付金：1件 300万円交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・職名	研究課題
太田 信哉	高知大学医学部先端医療学推進センター・テニユアトラック助教（特任助教）	分裂期染色体におけるタンパク質修飾の時空間変化の網羅的解析
小川 正晃	自然科学研究機構生理学研究所認知行動発達機構研究部門・特任助教	刺激-報酬間の連合学習における眼窩前頭皮質の因果的役割の解明
小林 哲夫	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科・助教	癌治療への応用を目指した膵臓癌細胞における一次繊毛抑制の分子基盤の解明
笹井 美和	大阪大学微生物病研究所・助教	TLR関連性の自己免疫疾患におけるサイトカイン産生の時空間的動向の解析
鈴木 崇之	東京工業大学大学院生命理工学研究科・准教授	シヨウジョウバエ視神経細胞でのコンディショナルノックアウト法を用いたシナプスの解析
土屋 恭一郎	東京医科歯科大学医学部附属病院糖尿病・内分泌・代謝内科・助教	血管内皮細胞におけるフォークヘッド転写因子の翻訳後修飾による機能的差異の網羅的探索と動脈硬化症における病態生理学的役割の解明

若手研究者海外短期留学奨学研究助成

6件 (交付金：留学日数により、決定。1件：45万円交付、5件：75万円交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関・留学先	研究課題・留学目的
内田好海	東京医科歯科大学大学院生命情報科学教育部・博士後期課程2年 Institute of Molecular Biotechnology of the Austrian Academy of Sciences(オーストリア, 30日間)	・ストレス応答性キナーゼMKK7による概日リズム制御機構の解明 ・ノックアウトマウス解析のため
小川真理子	大阪大学大学院歯学研究科統合機能口腔科学専攻・博士課程2年 チューリッヒ大学病院 (スイス, 90日間)	・ヒト補体免疫系回避機構における化膿レンサ球菌 <i>Streptococcus pyogenes</i> の分泌型プロレアーゼの機能解析 ・留学を通じて未知の研究手法や知見に触れること、国際理解や知識の拡大、語学力向上
崎元伸哉	京都大学大学院薬学研究科生命薬科学専攻・博士課程2年 Neuroprotection Research Laboratory、マサチューセッツ総合病院、ハーバード大学医学部 (米国, 90日間)	・脳虚血再灌流傷害におけるTRPM2チャンネルの病態生理学的役割 ・当研究室には実績の無い実験技術習得
高木恭仁子	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科健康科学専攻・博士課程3年 ルーアン大学 (フランス, 90日間)	・肥満症患者における食欲シグナルは血漿中免疫グロブリンによって増強される ・摂食障害における自己抗体症候群の研究
豊田洋輔	京都大学大学院医学研究科神経・細胞薬理学分野医学専攻・博士課程3回生 Stanford University School of Medicine (米国, 90日間)	・プロスタノイド受容体の構造解析 ・活性型プロスタノイド受容体と三量体G蛋白質の複合体の結晶構造解析に向けた技術の習得
中村晋太郎	九州大学大学院工学府物質プロセス工学専攻・博士後期課程1年 University of Pittsburgh (米国, 90日間)	・脱細胞化臓器由来可溶化マトリックスの開発および再生医療技術への応用 ・世界的視野の獲得、英語力の向上および人的ネットワークの構築